

達成感で弾ける笑顔



9月13日 鬼面山山頂にて



第656号
 発行人 ● 豊丘村公民館 唐澤克己
 編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
 0265-35-9066
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
 (10月1日現在 ※外国人を含む)
 男 3,370人
 女 3,487人
 総人口 6,857人
 世帯数 2,105戸

みんなで鬼面山へ登ろう!!

『苦あれば楽あり』大半が初登頂

次回に期待の声も

村と公民館共催の鬼面山(二、八九〇m)登山が九月十三日(日)に行われ、老若男女三十九名が参加した。鬼面山は伊那山脈の最高峰。この日は大鹿村と飯田市上村境にある初心者向けの秋葉街道地蔵峠コースを登った。急登や狭く切り立った場所もあったが、約二時間半かけ登頂。曇天で遠望はできなかったが、達成感を味わった。

鬼面山登山に参加して
 参加者最高齢 中宮 越野 渡(78歳)

長年一度は登ってみたいと思っていた鬼面山へようやく登る事が叶い、大変嬉しく思い、登ってみて感動しました。参加される方達は大人の方達だと思いましたが、「ゆめあるて」に集合したら小学生の子供さんが大勢いたのには内心驚きました。登山では私達より頑張っていました。登山道は途中何箇所か急峻な箇所もありましたが、何度か休憩を取りながら登ったので、スムーズに登ることができました。頂上に着き、展望台が設置されているので早速登り、最初に目についたのは眼下に見える喬木村の大島の集落でした。また遠くにかすかに見える所は飯島町かなと思いました。少しすると霧がかかってしまい、何も見えなくなっていました。残念でした。展望台を下りて昼食を取り下山。帰りは喬木村と南信濃村にまたがる矢管トンネルを通じて、全員無事帰村する事ができました。



昼食と弾む会話で疲れも癒え

一度挑戦したいと思います。おー! まるで「ものけ姫」の世界だー!
 林里一 西尾由章

登り始めてわずかの場所から遠山谷の方面に木々の隙間が開け、荘厳な山々の連なりが見えました。これは頂上までたどり着いたら、すごいかも!と思わせる景色でした。

最高峰。家族で本格的な登山は無理だけど、登山らしき事ができる最後のチャンスと思いましたが、3km弱の道のりということだったので、割と甘い考えで参加しましたが予想以上に本格的な登山を思わせる険しい場面もありました。途中のブナやシラカバの原生林には自然の偉大さを感じずにはいられませんでしたが、頂上からの眺望は!是非機会があれば皆さんご自分の目でご覧ください。

第1回 体育協会主催 村民マレットゴルフ大会

開かれる

第一分館主事 大原真一

体協理事を務める第一分館長の「十年ぶりの村民マレットゴルフ大会に、分館チームとして出場しよう!」という熱い思いを満ちたすべく、第一分館からは三チーム、九名が出場させていただきました。

当日は同じチームで一緒にならないよう、また他チームの方との親睦の意味もある

で、だんだんうまく打てるようになってきました。結果は、私の属するチームが分館対抗の部で「優勝」という結果となりました。

しかし、マレットゴルフクラブ員の方の個人スコアをみると「どうすればこんなスコアで回れるんだ!」というような少ないスコアの方もおられ、大変驚きました。

マレットゴルフという競技は年齢や体力のハンディは全くなく、老若男女一緒になって楽しめる競技です。豊丘村には、水辺、アカシア、堀越天神公園と三つのマレットゴルフ場がありますので、自治会等の親睦行事に取り入れてみてはいかがでしょうか。

個人の部優勝 林 皎

スポーツの秋でもある九月二十一日、数年間中断していた豊丘村民マレット大会がこの度豊丘村体協が主催し同公民館が後援して新たに一回目が開催されました。秋晴れの下、アカシアマレット場に四十五名が参加し個人戦と分館対抗戦が行なわれました。下平村長さんのご挨拶では、これを契機に参加者の輪を一層広めたい、次回からは村長杯を準備します。と後援の激励をいただきました。今回は一回目と言う事で参加がやや少なかったですが、日頃鍛えたベテランから初



「入って!!」カップ手前で掛け声が

者まで真剣に狭い難コースではOBに苦しめられながらも皆爽やか笑顔にてプレーを楽しみました。主催者のご配慮で景品もそれなりに準備され盛り上がりました。私は馴染みのグラウンドにて図らずも個人優勝の誉れを頂きました。次回の二回目はもっと多くの参加者を期待したいと思います。

都会へ出た友人は、「やっぱり地元がいい。ずっと居る人は、あたり前すぎて分からないかもしれないけど。」と言いました。何があたり前なのか、思いながら生活できれば、感謝もできるし、大切にしようと思えます。そうすれば、自分も周囲も幸せな気持ちで毎日が過ぎると思うのですが…。

(原 明美)

段丘

♪あたり前のことなんて何もあるはずもない こんな世の中で♪ ラジオからこんな歌が流れてきました。鬼怒川の災害で被災した男性が、「平凡で退屈な毎日がつまらなかつたけれど、こうなってみると、なにものもない日常が、一番幸せな事が分かった。」とインタビューに答えていました。

「今ある物が、いつまでもあるはずがなく、だから大切にしないといけない。」とガンで手術を受けた芸能人がブログで気持ちを載せていました。

災害も病気も、あたり前ではなくて、突然身に降りかかってくる。普段から、非常持出品を用意しておくとか、村で実施してくれる各種検診を受けるとか、心がけてできればいいのです。が、現実には、なかなか、そうはいきません。少しづつでも、気にかけていければと思います。

寄稿

戦後70周年に寄せて②

前月号に引き続き、皆様からご寄稿いただいた、ご意見やご提言を掲載させていただきます。

戦時中の学校教育 南市場 日下部富次八十三歳

私は日本が軍国主義国として首進を始めた年に生まれ、日中戦争を始めた年に小学校に入学し、敗戦の年に国民学校を卒業しました。感化され易い時代を全て戦争教育で育ちました。従って私

たちは戦争は正しくその為に死ぬることは荣誉なだと子供たちに思わせる教育を受けてきたのです。今にして思えば恐ろしい教育を受け洗脳されて育ったのです。欲しがりません、勝つまでは。君（天皇）の為、東洋平和の為に生命を投げ出せる人間づくりの学校生活でした。その学校生活を詳しくは表現しきれませんがその目的になります。空恐ろしさを感じています。

一部を記してみました。私達が小四の年から尋常小学校が国民学校に変わって戦時色が濃くなり、教科書も改定され何ヶ月も過ぎてから児童の所に渡ったのです。しかも、奉仕、奉仕でろくな授業もなかったのです。どんな教科書だったか記憶にありません。しかし、今になっても自然に口ずさむのは、軍歌（軍国歌謡）です。何々の為に死ぬることを美化した歌詞です。八十年近くを経てもしっかりと脳裏に染み込まれていることを考えると、随分教えこまれていたのだと思います。恐ろしいことです。四年生になると、勤労奉仕といって農作業の手伝いに出かけました。青年男子

が兵役に徴用されて労働力が足りない為、授業のかわりに農作業の手伝いに少年団（今の地区育成会）の子供達が出掛けたのです。冬のストロブの薪は、大人が伐り倒した木を山から運び、ストロブで焚ける長さで切り、割るまで全部子供の仕事でした。こうしたことは際限がありませんので、農作業の主なものを列挙してみます。

○道路両端に大豆栽培・さつまいもづくり○蚕の手伝い及び、桑の皮むき○赤蘇とり○村有林からの木炭運び○麦踏み等々です。

最近の日本は、安売法案等々、戦争のできる国にする対策が目白押しです。その他にあまり話題になっていませんが、教育内容など変更し、若い人達が戦争のできる方向に進めるように改めています。空恐ろしさを感じています。

【注釈】

※県道（黒谷線の両側に大豆を蒔き、収穫。校庭の半分程を耕し、さつまいもづくり。他に果樹園の下を借りてさつまいもづくり。

※桑の皮むき―桑の葉を収穫したあと、桑の棒の乾く前に皮をむいて干し、それを繊維にして布にして利用。

※赤蘇を刈りとり、乾燥して、繊維として利用。
※麦踏み―秋時麦が冬を越す時、土が凍み上がって枯れるのを防ぐために麦の上から土を踏みつけて、枯れるのを防ぐ。

次世代に平和を

中部三 鎌倉美登里

戦争を知らない、私達に

とつては、二度とあつてはならない悲劇である。その恐ろしさ、その被害者の気持ちを私達は、痛感しなければならぬ。たとえ、国は違っても、人の命と云う物は同じである。それを戦争という痛ましいもので、はかなくも、失うべきものではない。それを心の中で誓って、そしてそれを、起こさぬようお互いに助け合い、国同志、和解し、自国を守り、次世代に平和な世の中を引き継がせるように、したいものだ。

平和を考える学習を 女性 匿名希望

私は、幼少期に曾祖父や祖父から、戦争についての話を何度か聞かされ、とても貧しかった日本から、豊かになるまでの苦勞話をしてくれたのを思い出します。「戦争」と聞いても、実際私たちが世代も体験していないことで、今の子どもたちに伝えようとしても、メディアからの情報からしか手段がないので、義務教育の中で、七十年前の悲惨な経験、戦争というものを二度と繰り返さないために、平和について考える学習、戦争という言葉の重みを考えられるような場を作っていく必要があると思います。

戦争をしない国に 三十年代女性 匿名希望

私達の世代が、戦争について学ぶ機会があつたのは、学校図書館の「はだしのゲン」をはじめ授業で学歴史の中やTVからなどでした。祖父母たちは、具体的なことは何も語りたがりませんでした。つらい思い出だったからでしょう。

戦いの最前線に行くのは、日本も相手の国も、誰かの恋人であり、息子娘であり、夫や妻なのです。ニュースで戦う兵士をみると、その人の親や家族のことを思います。外交努力で解決できますよう。戦争ができる国ではなく、しない国としての力をつけてほしいと願っています。

戦争の悲惨さを語り継ぐ 十代女性 匿名希望

私は中学校一年生の時から総合的な学習の時間で満蒙開拓団について勉強してきました。今は授業で戦争について勉強しています。私は、戦争はすべて日本は悪くないと勝手に思っていました。しかし、勉強をする中でおどろいたことが二つあります。一つ目は、日本が中国を勝手に満州という国にしてしまったことです。二つ目は、長野県下伊那郡は、日本で一番満州に渡った人が多いことです。「満州へ渡れば広い土地がある。」そんな言葉にさそわれて満州に渡った人も多いでしょう。本当の事実を知らされないことに、私は悲しさと悔しさを感じました。

私はこれからの日本に平和を語り継ぐには、今までの日本の戦争の悲惨さを隠さずに、後世に語り継ぐということが、一人一人の意識を変え、本物の「平和」を語り継ぐことになると思います。

3年目を終えた通学合宿

裏方さんたちの活躍②

職員・調理員 慈恵園職員・編集委員 熊谷由紀乃

今年も慈恵園では六月から九月まで、計七回の通学合宿が行われました。豊丘南北小学校の小学四年生の児童全員が対象で、園で三泊四日の宿泊体験してもらい、プチ自立してもらおうことが目的です。子ども同士が協力しあい、楽しめた通学合宿になったようです。



大釜を囲み、おにぎり作り♪

通学合宿では、慈恵園の職員が対応しています。調理の福澤真由さんは、「人気のメニューの時はご飯をよく食べてくれました。子どもたちと直接関わることは少なかつたですが、職員さんから子どもたちの情報を聞き、連携をとりながらサポートしました。」と述べています。子どもと直接関わり援助をする「こっこ」職員唐澤友里さんは「子ども同士のトラブルも起りましたが、自分たちが自分の力で解決できるようにでき

シリーズ「元氣な高齢者⑭」

趣味を生かして交友深め

大澤しげ子さん
九十三歳
小園在住



取材にお邪魔すると、息子さん御夫妻と共に玄関まで出迎えて下さったしげ子さんを見て、一瞬目を疑った。あまりに若々しく表情も豊かだったので、「人違いかな」と思ったのだ。

しげ子さんは上田市の上田城の近くで三男二女の三番目の子としてお生まれになった。父は教員で県内各地を転勤された。若くして亡くなった母に代わり、子供達を厳しいながらも慈愛に満ちた養育をされ、兄弟姉妹の面倒を見てくれたので不自由や不満など感じることにはなかつた。

十九歳の時、知人の紹介で結婚し現在の小園に来る。当初は上田と比べ随分田舎だと感じたが、親戚や近隣の人々が親切にしてくれたので、戦争による悲惨さをそれ程強く感じなかつた。郵政にお勤めの御主人は転勤が多く、長野県内から新潟県にも渡り歩き、同行したしげ子さんにも各地に友達が出来た。新潟の友達とは現在でも手紙のやりとりなど交友が続いている。

文責 桐崎 長一
日下部富次

新連載 とよおか100年前

『豊丘村民話集』より

豊丘史学会では毎年『豊丘風土記』を発行し、村の歴史や現在の様子を記録しています。その前身は、同会が昭和五十二年から刊行していた『豊丘村民話集』です。

創刊号である第壹輯の「はじめの言葉」で、当時の小沢万里・豊丘史学会長はこう書いています。

「私共が幼い頃、夜、寝付かせようとして着布団の上から軽く叩きながら、お祖母さんお母さんから聞いたその話を、また私どもは自分の子らに聞かせ、今では孫やひこ孫が聞く番になりました。しかし、こういう胸の温まるような昔話も社会の多忙と環境の激変とによって暁の星のように次第に消え去ってしまいます。今のうちから、否、今では遅すぎるくらいですが、書き留めておきたいものです。」

この文章が書かれてから、すでに四十年近くが過ぎました。もし昭和の時代が続いていれば、今年も昭和九十年です。『豊丘村民話集』の執筆はおそらく明治・大正生まれの方々でしょうから、この本の中には百年くらい、あるいはもっと昔の豊丘村の話が載っていることになりそうです。

当時を知らないわたしたちが、これらの話を子供に聞かせても臨場感を込めて語ることはできないでしょう。しかし、いま再録することの後世に残すことができると考え、連載することにしました。再録する文章は、主旨を変えずに手を加える場合があります。

(壬生雅穂)

十二天のお滝の物語

片桐清美
子供の頃、父に毎晩せが

んでは聞いた昔話です。北村と中平の谷間を芦部川が流れていて、里にもこのような良い滝があるのかと誰でも驚く景色のよい十二天のお滝があります。昔、部落のなかで人寄りがあつてお膳やお椀が数多く要る時、十二天のお滝に十人分とか二十人分をせびお借りしたいとお願ひすると必ず必要分を揃えて貸してくださいました。部落の人たちからとても重宝がられたのでした。

ところがある時、心のよくない人が、お借りしたお膳とお椀をお返ししなかった。そのため膳椀がなくなつたためか、それとも怒つてしまつたのか、心よくない一人のために、その後いくらかお借りしたいとお願ひしても貸してくれなくなりました。

このお滝、水量のあるときは実に雄大な眺めで、夏の涼みに、また秋の紅葉は一段と美しく、昔話を思い浮かべながら眺めるのも楽しいと思います。

(豊丘村民話集・第壹輯
昭和五十二年)より



現在の十二天のお滝

超高齢化社会到来と高齢者クラブの課題

豊丘高齢者クラブ連合会会長
片桐秀人

豊丘村高齢者クラブ連合会は村内九単位クラブの集りです。連合会の事業はゲートボール大会を年二回、マレットボール大会を年二回、親睦旅行を年一回などが主な事業で、健康維持、親睦、社会奉仕活動を主な目的としています。会員数は現在八七〇名程度です。従来からの活動は前述の通りですが、我が国全体が超高齢化社会となり種々な社会問題、年金医療介護な

投稿

マイナンバーと防犯カメラ

北市場三 山本義彦

マイナンバーが各個人宛に送られて来ているが国民の半数以上が理解していない現状では早すぎるのでは。もともと、この問題は一九六〇年代に国民総背番号制をとの発想から始まった事で、その後住基ネットが稼働し二〇一三年五月にマイナンバー法が成立したように、あまり国民的議論がなされたような覚えが無いのだが、多少反対論を聞いたような気はする。法律が成立しているの仕方ないが、なぜか安売法案のどきどきの内に実施したような印象はいない。当面は行政手続「税、年金、他」のようだが、やがて動産「預貯金、証券、他」やその他あらゆる個人情報網羅されると言われている。目的は脱税やその他の犯罪等に対応云々と言っているが最終目的は政府が国民を一元的に管理するのが狙いだと思える。専門家が多数。どうも秘密保護法と安売法に全て連動するのは、うがった見方をしたくなる。公共放送の態をなしていないNHKの初井会長が、これは使えぬ、などと発言したの

には驚く。視聴料を確実に徴収する為だが、先に改革することがあるのでは。確かに一枚のカードで全て事が足りると聞けば一見都合がいいようだが、使わされる側から見ればリスクが大きいような気がする。導入とその後運用には莫大な経費が掛かるそう、費用対効果から見るとは天下一先を増設するようなもので、さすが霞が関の住人の考えそうなお話である。

一方、防犯カメラだが市街地や繁華街には無数のカメラが設置されている。そのせいで犯罪検挙率が向上していることは確かである。しかし悪意を持って死角を利用するようになる為、カメラの増設が不可欠になってくる。ある実験で本人には大まかな了解を得ながら、自宅を出てから帰宅までのカメラの映像を繋ぎ合わせると、なんと個人の一日の行動が全て把握出来た、面白い物でも。したがって、もはや監視カメラに変身しつつある。マイナンバーだけでなくプライバシーが丸裸にされてしまうと今から心配されているが、これに監視カメラが加わればレントゲン並みなのか？。カメラが必要な社会を作ってしまったのは誰なのか、若者に希望が持たないような国の施策が悪いのか、はたまた家庭環境が狂つたのか、または地域社会の連帯が希薄になったのか。毎日のように殺人事件やその他の事件がある為、いつの事件か判別がつかなくなってしまうほどだ。豊丘村は今のところ公的なカメラは無いそう、安心安全で豊かな村づくりには村民一丸となって防犯カメラなど永久に必要な無い環境を作ろうではないか。

女団連が箕輪でリーダー研修

現地で生の情報を得る機会

●●● 実技講習なども行なう ●●●
若い世代が活躍できる体制づくりを

女性団体連絡協議会
会長 壬生万里子

先の九月七日箕輪町の農産物加工所、直売所(にこりこ)、隣接するレストラン(たべりこ)へ行きました。始めに役場の方から全体の説明を聞き、続いて加工所を案内して下さいました。行程ごとの部屋、また機械等を見学。おすすめは地元野菜や果物のジャム、ピクル



ハーブソルト作り講習風景



(資料館主任 唐澤武彦 をご覧下さい。)

こちら資料館 157 資料館特別展のご案内

本年度の「資料館特別展」は、「豊丘の獅子大集合」と題し、村内の獅子を一堂に集めて、十一月十七日(火)〜二十二日(日)に「ゆめあるて」で行ないます。昨年は、獅子バスや河野獅子の国民文化祭出演等で、村内の獅子が何かと話題になりました。また、今年「とよおかまつり」では、村内十社の獅子舞とお囃子で村政六十周年を祝うことになっています。

今回の特別展は、伊那谷で独自の発展をとげた「練り獅子(屋台獅子)」にスポットを当て、各神社の獅子頭を展示するとともに、それぞれの獅子舞とその特徴について紹介いたします。また、獅子舞を行なっていない神社については、屋台囃子の紹介を行ないます。同じように見える獅子舞ですが、各社各様、それぞれ別々の歴史と伝統を持っています。また、二十一日(土)の午後には、飯田美博の桜井弘

豊丘の自然

~シリーズ~
No.144

ツクツクボウシ (セミ科)



六つの数字を紹介する。五百八十一試合、三千三百四十八回2/3、一万三千八百六十二人、五万三千七百六十球、二百十九勝百六十五敗五セーブ、三十二年間。山本昌投手の記録である。数字は全て積算。

そこで、「積算」にこだわって、今年、飯田・下伊那で初めて確認したスナアカネについて書く。七十年前、伊藤先生はト

ンボの調査を始めた。そこから数えると七十五種類目になる。しかし、この積算はあまり意味がない。環境の変化がトンボ相を変える。だから、今年、六十二種の確認をした」との記録の方が大事。もちろん、標本は残す。

ようやく、ツクツクボウシにたどりついた。飯田・下伊那の十二種類のうちの九種類目として紹介する。(山田 拓)

私たちが三年生は、どの行事にも「最後」とついてしまします。当然、輝丘祭も最後でした。そんな輝丘祭は、今年のテーマである『光輝』の通り、一人一人の小さな光が集まり大きな輝きとなり、最後にふさわしいものとなりました。特に音楽会はとも印象に残っています。今年から発表会形式になったので、最初はみんなの意識がまとまらないこともありましたが、しかし、指揮をしていると、日が進むにつれてみんなの気持ちが集まってきました。そして本番は、全員の気持ちが完全に一つになり、今までで



九月二十七日(日)にゆめあるてにて、第二十三回人形劇豊丘公演が開催されました。

「人形劇団ばんび」にお越しいただき、「一大事でごさる！」の二作品を上演していただきました。二作品は、この豊丘公演が今年最後の公演で、ばんびの皆さんの息の合った流れるような演技を観ることができました。「一大事でごさる！」では遠眼鏡(望遠鏡)が出てきますが、遠眼鏡を使った子ども達とのやり取りがあるなど、会場の一体感を常に大切にしています。劇中には綱引き合戦の様子が出てきますが、これは長野県と静岡県境の「峠の国盗り綱引き合戦」からヒントを得たそうです。

子どもから大人まで生の人形劇に目を奪われ、会場は人形劇の創り出す独特の雰囲気包まれました。終演後の交流会では、地元産のりんごをプレゼントし、秋の味覚を味わっていただきました。

来年もぜひ楽しみにしてください。

豊丘中の輝丘祭

気持ちが一つに、最高の感動

最後の音楽会

豊丘中学三年
丸山小桃

一番感動する合唱となりました。また、学年合唱はさらに感動しました。一組の繊細できれいな歌声と二組の力強い歌声が重なり、歌っている鳥肌が立ちました。そして、歌い終わった時の爽快感は生まれてから一度も味わったことのないものでした。今度は郡の音楽会で、私たちの合唱を発表する機会があります。輝丘祭での経験を生かし、さらに良い合唱にしていきたいです。

昼夜二公演楽しむ

本館主事 元島将太

九月二十七日(日)にゆめあるてにて、第二十三回人形劇豊丘公演が開催されました。

「人形劇団ばんび」にお越しいただき、「一大事でごさる！」の二作品を上演していただきました。二作品は、この豊丘公演が今年最後の公演で、ばんびの皆さんの息の合った流れるような演技を観ることができました。「一大事でごさる！」では遠眼鏡(望遠鏡)が出てきますが、遠眼鏡を使った子ども達とのやり取りがあるなど、会場の一体感を常に大切にしています。劇中には綱引き合戦の様子が出てきますが、これは長野県と静岡県境の「峠の国盗り綱引き合戦」からヒントを得たそうです。

「一大事でごさる！」の一場面

| 9月1日から | | 9月30日まで(届出分) | |
|--------|-----|--------------|---------|
| 子氏名 | 届出人 | 子氏名 | 届出人 |
| 柳澤 晃輝 | 自治会 | 澤木 真一 | 駒ヶ根市 |
| 元島 翼 | 洋輔 | 原 美夏 | 小園 |
| 小池 統賀 | 哲司 | 松下 正暁 | 根羽村 |
| 小池 凌功 | 寿幸 | 三石 詩菜 | 壬生浜北 |
| 小池 寿幸 | 林 原 | 虎岩 祐希 | 阿智村 |
| 桐崎 淳樹 | 高森町 | 稲葉 祐希 | 伴野原 |
| 坂下 里沙 | 林里一 | 死亡者 | 死亡者 |
| | | 年届 | 届出人 |
| | | 84 | 豊彦 山田 |
| | | 87 | 大原 好子 |
| | | 81 | 大原 好子 |
| | | 97 | 中山 壽子 |
| | | 97 | 四德 菊恵 |
| | | 85 | 今井 守雄 |
| | | | 育雄 北市場三 |

俳句 短歌

雲の果て水音のあり青胡桃
二人居の暮れも馴染みの白露かな
蟋蟀の染み入る蔵の歴史かな
とどまればあたりとびかう蜻蛉かな
朝刊にマツタケの写真でかかど
鶏鳴にゆるり朝顔起こさるる
天龍を遡り来る初嵐
段丘の稲穂満ちゆく散歩道
向日葵畑小さき帽子駆け巡り
初秋の風吹き下ろす天竜川
深く身の離れゆく新秋刀魚
夕すつに女が掘り来し新牛蒡

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
下平 玲子
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
宮下 公
宮下 純子
丸山 時子
林 恵美子
北原 昭子

この国の行く末案ず「安保法」戦禍に逝きし人の声きこゆ
筒井 恵子

先人の偉業たたえし開墾碑紙芝居となり語りつがれし
松尾ヒサコ

雨あがり刈田のわらを立ち上げて妻のわらしべ受けてくりぬ
松下 泰見

カーテンに身を寄せしいるカマキリは西陽受けて夏をおしまむ
福澤真美恵

生まれたてのアカウミガメは旅立たん無事に戻れよ遠州灘に
大原真由美

妻病みて炊事はわれの担いなり雨の今宵は煮込みうどんに
富永 博道

八日念

この先はどうなる強行採決に外は法案反対のうねり
紅 梅

吾が友の住みいし家には誰も居ず庭も畑も夏草のなか
吉澤 新子

こんな事吾にやれとは云われずも草だらけの畑見かねておりぬ
松島 八重

刺すほどの暑さにバスを待つ長さときおり微風の覗きてゆくも
河原 梨花

久々に母の遺品をひもとけば私の通知簿あり想い新たに
岳 道

夏服を持ちて秋の沖繩へ養蚕旅行の遙かな思い出
壬生 千春

久びさに曾孫のアルバム届き来て成長ぶりに目を見張り見る
久保田 妙

東の二重の虹にも目もくれず女子高生はスマホ操る
北澤 秀子

コーヒの香に浸る宵等閑の想いは果てず匙をめぐらす
毛涯百合子

寂しさにふと甦る若き日の淡き想いは己だけのもの
大倉 知江

神之峰ゆ城山を過ぎ茶白山狼煙りレーに歓声挙がる
福澤 亀人

柳

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「骨」 吉川 燎 選

出湯行き年金つれて骨休み 市沢 照子

川柳の骨が見抜けぬ苦吟作 安田 喜子

反骨を貫き生きて損ばかり 林 桃子

軸吟：骨折った礼につがれたうまい酒

▼課題「厚」 互選

人情の厚さ昭和の語り種 原 美風

厚かましい奴だが何故か憎めない 桃沢 健介

答弁の首相の厚い面の皮 福沢 勝美

▼自由吟 桃沢健介 選

反対のデモの叫びが聞こえぬか 吉川 燎

稗の種まき散らしてコンバイン 久保ひろし

気どつても見てくれるのは鏡だけ 小澤 凜

出てほしい反骨議員永田町 西元 峯子

軸吟：暴君を諫める家来消滅し

「柳」の通り、一人一人の小さな光が集まり大きな輝きとなり、最後にふさわしいものとなりました。特に音楽会はとも印象に残っています。今年から発表会形式になったので、最初はみんなの意識がまとまらないこともありましたが、しかし、指揮をしていると、日が進むにつれてみんなの気持ちが集まってきました。そして本番は、全員の気持ちが完全に一つになり、今までで

「柳」の通り、一人一人の小さな光が集まり大きな輝きとなり、最後にふさわしいものとなりました。特に音楽会はとも印象に残っています。今年から発表会形式になったので、最初はみんなの意識がまとまらないこともありましたが、しかし、指揮をしていると、日が進むにつれてみんなの気持ちが集まってきました。そして本番は、全員の気持ちが完全に一つになり、今までで